

上野幌・青葉地域 **北側部会 ニュース**

上野幌・青葉地域小規模校検討委員会はこれまで地域の4つの小学校を対象に検討してきました。平成28年9月からは議論を深めるために、北側部会（上野幌小学校・青葉小学校）と南側部会（上野幌西小学校・上野幌東小学校）に分かれて検討することになりました。このニュースについても部会ごとに発行します。

～このニュースはまちづくりセンターや児童会館、学校でも配布しています～

第2回部会について

1月31日（火曜日）午後3時から、青葉小学校で第2回部会を開催し、統合後に活用する校舎について検討を行いました。

報告事項個別に寄せられた
意見

11月4日に開催した第1回部会以降、手紙で1件、メールで2件の計3件のご意見が事務局に寄せられており、その報告がありました。

- 厚別区全体で学区編成したほうがいいと思う。
- この地域の中学生は青葉中学校に通うので、小学生と中学生の通学の方向が同じになる上野幌小学校を活用する方がいいのではないかと。毎日同じ時間に同じ経路で中学生が通学するため、小学生を見守る人が増えるのはメリットになる。

（平成28年12月 メール）

- 上野幌小ミニ児童会館は学校内に設置されているので、安心・安全である。上野幌小学校を活用し青葉児童会館が統合後も存続するのであれば、2つの児童会館のどちらも残り便利の良い児童会館を利用でき、過密化による弊害を避けることができるのではないかと。
- 両校のメリットを議論しても結論が出ないのであれば、活用する校舎やその理由に関してアンケートをとることも一つの方法なのではないかと。

（平成29年1月 手紙）

- 小中一貫校も視野に入れ、隣接する青葉中学校を含め文教地区としてよりよい学校づくりを進めるため、上野幌小学校を活用してほしい。
- 学校の統合により通学距離が長くなる児童の通学路の安全確保や配慮は必要だと思ふ。

（平成29年1月 メール）

札幌市の小中一貫校の検討状況について

第1回部会で確認事項となっていた、札幌市の小中一貫校の検討状況について、事務局から報告がありました。

■小中一貫教育の二つの類型

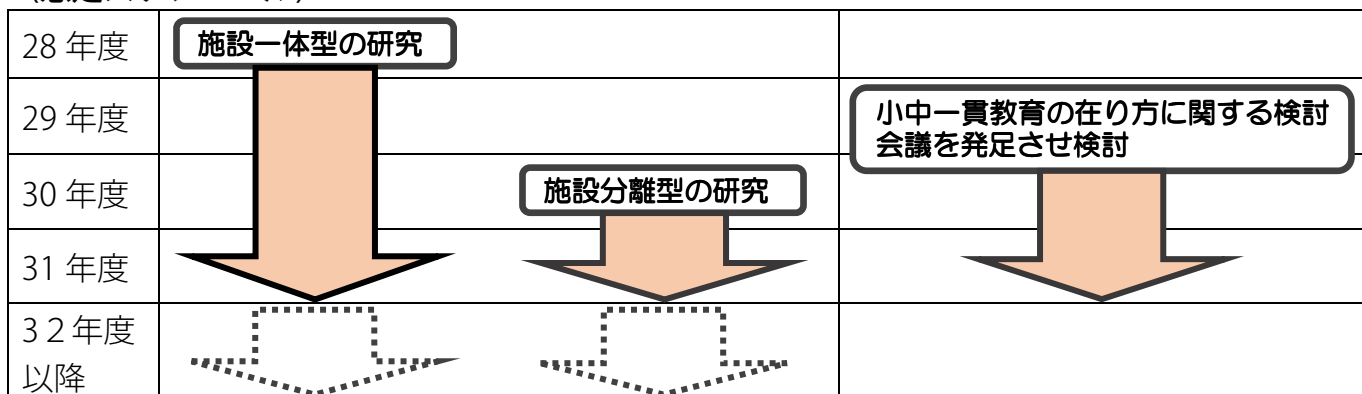
(文部科学省ホームページから抜粋し転載)

	義務教育学校	小中一貫型 小学校・中学校
修業年限	・9年(ただし、転校の円滑化等のため、前半6年と後半3年の課程の区分は確保)	・小学校・中学校と同じ
教育課程	・9年間の教育目標の設定、9年間の系統性を確保した教育課程の編成 ・小・中の学習指導要領を準用した上で、一貫教育の実施に必要な教育課程の特例を創設 (一貫教育の軸となる新教科創設、指導事項の学年・学校段階間の入替・移行)	・9年間の教育目標の設定、9年間の系統性を確保した教育課程の編成(※) ・小・中の学習指導要領を適用した上で、一貫教育の実施に必要な教育課程の特例を創設 (義務教育学校と同じ)
組織	・一人の校長 ・一つの教職員組織 ・教員は原則小・中両免許状を併有 (当面は小学校免許状で小学校課程、中学校免許状で中学校課程を指導可能としつつ、免許状の併有を促進)	・学校ごとに校長 ・学校ごとに教職員組織 (学校間の総合調整を担う者をあらかじめ任命、学校運営協議会の合同設置、校長の併任等、一貫教育を担保する組織運営上の措置を実施)(※) ・教員は各学校種に対応した免許状を保有
施設	・施設一体型・施設隣接型・施設分離型	

(※) 通常の小・中連携と区別するため、これらの事項は要件化

■札幌市における小中一貫校の検討

〈想定スケジュール〉



◇モデル校における小中一貫教育の研究の推進

⇒施設一体型：平成28年度に「福移小中学校」をモデル校に指定して研究中

⇒施設分離型：平成30年度にモデル校を指定して研究予定

※状況によっては、平成32年度以降も引き続き研究を行う場合がある。

◇市民や有識者等による検討会議

⇒平成29年度から先進校の取組やモデル校研究を生かして小中一貫教育について検討

モデル校の研究や検討会議の検討結果を踏まえ、小中一貫校の導入の可否を含めた札幌市の小中一貫教育の方向性を決定

検討事項

下記の検討事項について、協議を行いました。

今後の検討の進め方について

第1回部会で確認事項となっていた、統合後に活用する校舎を決定する時期を定めるかどうかの検討を行うため、スケジュール例などが事務局から示されました。

また、統合後に活用する校舎を決める際に、どの観点を優先して検討を進めるかについて確認しました。

■仮に平成32年度に統合校の開校を目指す場合のスケジュール例

平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
意見書の提出 ↓ 予算要求	設計 ↑ 予算要求	工事 ↑ ※統合に伴う教室の整備や老朽個所の改修等を実施予定	統合校開校 (工事) ※場合によっては、1年目の工事でできなかった改修を統合後に実施

※校舎の改修工事に係る予算要求の期限は9月頃であり、それまでに統合後に活用する校舎に関する意見書が提出されない場合は、統合時期がさらに1年遅くなる。

■統合後に活用する校舎を決める上で優先する観点

どの観点を優先して検討を進めるかについて確認しました。

教育環境

まちづくり

財政面

委員からの意見

各委員から主に以下のようなご意見がありました。

■統合後に活用する校舎を決定する時期などについて

- 平成32年4月に新設校が開校できるように、9月までの意見書提出を目指すべきではないか。
- 平成32年度から新たな学習指導要領が実施されるため、新設校の開校時期を合わせるメリットは大きい。
- 新年度に交代した新しい委員が、統合後に活用する校舎をすぐに判断するのは困難だと思うので、今年度中に決めるべきではないか。

■統合後に活用する校舎について（継続）

- 統合後に活用する校舎を決める上で、3つの観点を比較し優先順位を決めるならば、最優先は「教育環境」ではないか。次に「まちづくり」となり、「財政面」も大事だが優先度は低いのではないか。
- 将来的に小中一貫校を目指すことについては異論がないようなので、小中一貫校を目指すことを前提にして統合後に活用する校舎を検討していくべきではないか。

- 将来の小中一貫校を想定して統合後に活用する校舎を決めるのは違和感がある。
- 中1ギャップの解消等、小中の連携は今後一層密に進めていく必要がある。これは児童にとって非常に有意義なことであり、将来的に小中一貫校を目指し検討していくことは、この地域の児童のためになるのではないか。
- これまで2校の比較では統合後に活用する校舎が決まらなかったが、上野幌、青葉両地域が将来的な小中一貫校を札幌市に要望するという観点で一致しているなら、協力体制がとれるのではないか。
- 子どもの教育環境を第一に考えると、将来的には施設一体型の小中一貫校で9年間学べるよう、札幌市に要望していくべきではないか。
- 将来的に現在の青葉中学校の校舎を建て替え、施設一体型の小中一貫校を目指すのなら、それまでの間青葉小学校の校舎を統合後に活用するという考えもあるのではないか。
- 青葉中学校の場所に施設一体型の小中一貫校を新築することが理想であるが、実現するまでのハードルはかなり高いのではないか。
- 2年半検討してきたが、どちらの校舎を活用したほうがいいのかの「決め手」がないことから、教育委員会に判断を委ねるという結論もあるのではないか。
- 統合後に活用する校舎を決めた「理由」は教育委員会に委ねるのではなく、現在の委員が責任を持って出すべきではないか。

決定事項

第2回の部会では、以下のことを決定しました。

- 平成32年度の開校に向け、統合後に活用する校舎の決定を含めた意見書を9月までに提出することを目標とする。
- 統合後に活用する校舎を決める際は、「教育環境」の観点を最優先して検討を進める。
- 学校統合後に小中一貫校を目指していくのかを次回の部会で確認する。

第3回の部会について

第3回部会は、3月中旬の開催を予定しており、引き続き統合後に活用する校舎について協議を行います。

■ ご意見・ご質問は、下記の検討委員会事務局までお寄せください ■

上野幌・青葉地域 小規模校検討委員会 事務局

札幌市教育委員会 生涯学習部 学校施設課 (学校規模適正化担当)
 〒060-0002 札幌市中央区北2条西2丁目 S T V北2条ビル
 T E L 011-211-3836 / F A X 011-211-3837
 E-mail gakkokibo@city.sapporo.jp

※ 検討委員会ニュースは、札幌市教育委員会ホームページにも掲載しています。
<http://www.city.sapporo.jp/kyoiku/top/tekisei/kentoutiiki.html>